

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<p>・生徒が自ら考えを発表したり、相手の考えを聞いたりするような授業展開をより多く取り入れ、指導方法の工夫や個に応じた指導を行う。</p> <p>・「アクティブ・ラーニング」についての研究を進め、生徒が主体的に学習に取り組めるように授業改善を行う。</p>	<p>・「アクティブ・ラーニング」を授業に取り入れることにより、生徒自身が主体的に活動する機会が増えてきた。「聞く力」「話す力」が向上するとともに、仲間と協力していくコミュニケーション能力が伸びた。授業のカリキュラムと進捗の関係を含め、さらなる改善を行っていききたい。</p>	B
豊かな心	<p>・教科学習や道徳、行事を通して生徒一人ひとりが成長を感じられる指導や評価を大切にする。特に、行事等の活動の中で、人とのかかわりをもつことで自分の存在を肯定的にとらえ、楽しさを感じ、自らの働きかけで人の役に立った、人に喜んでもらえたなど相手の存在によって得られる「自己有用感」がもてる指導に努める。</p>	<p>・生徒が主体的に道徳や教科学習、行事に取り組み、協力し合って活動する中で、互いを認め合い、充実感や達成感、自己有用感をもてるよう努めた。特に道徳では、生徒一人ひとりが身近なこととして意識をもてるように、講師の派遣や体験的な活動を取り入れた授業を実施した。</p>	B
健やかな体	<p>・新体力テストの調査結果を受け、向上させる必要がある体力や能力を意識しながら学習に取り組む。日々の健康観察の充実を図り、生徒の実態、課題に応じた健康教育の充実と保健指導の推進に努める。学校保健委員会の活動を推進し、食生活や生活習慣を中心とした健康教育の充実を図る。</p>	<p>体力向上のために、保健体育の授業で毎回3分間走を取り入れ心拍数も計測し、フィードバックしながら行ったので意欲的にできた。保健安全の課題について職員間で共有し、生徒の実状からスマホ・ケータイ安全教室を実施した。生徒保健委員会では、毎月の保健新聞の発行、水質検査、生徒集会で健康教育をテーマに発表を行った。</p>	B
児童生徒指導	<p>全職員での教育相談などを通じて、いじめや不登校の早期発見に努める。日々のコミュニケーションを多くとれるように休み時間には生徒の近くで寄り添えるように努める。</p> <p>スクールカウンセラーなどとの連携を図るために、気になる生徒がいれば報告・相談を常にしていくことに努める。</p>	<p>面談や教育相談・アンケートの実施によりいじめや不登校の早期発見に努めることができた。子どもへの寄り添う指導により、子どもや保護者からの相談が増え、きめ細やかな指導につなげることができた。スクールカウンセラーや外部機関との連携も専任を中心に行うことにより、教員のみならず多くの大人が関わることができた。</p>	B
地域連携	<p>・地域の祭礼、「みなみ祭り」「桜まつり」等の区の行事への参加を積極的に促し地域や区と連携しながら取り組む。</p> <p>・地域防災には生徒会役員を中心として委員会の生徒なども参加し地域の方々と協力しながら地域防災と災害時の支援活動のお手伝いに努める。</p>	<p>地域の祭礼等の区の行事に積極的に参加し地域との連携が図られた。吹奏楽部や和太鼓部は、地域の祭礼で演奏し、茶道部は老人ホームにて、お茶会を開くなど地域とのふれあいの場が多くあった。環境委員会の地域清掃も行われ、美化に努め、地域防災については地域の方との協働作業を行った。</p>	A
キャリア教育	<p>職業調べや職業講話、職場体験などの学習を3年間で計画的、系統的に学ばせる。人や社会のかかわりを通して、生徒一人ひとりが社会的、職業的自立に必要な能力や態度を育てます。キャリア教育の学びから自己理解が深まり、進路選択の基礎になることを目指す。</p>	<p>1年職業講話は、クラスごとに講師を招き実施し好評だった。2年職場体験では、新規受け入れ先を検討し、職場体験受け入れ先を広げ、生徒と他者とのかかわりを通して、働くことの厳しさやマナー学ぶことができた。3年の進路選択に生かすことができた。</p>	A
人材育成・組織運営	<p>・校内授業研修会やメンターチームなどの研修組織を充実させ、また、キャリアステージに応じた校外の各種研修会を積極的に活用し、教職員の力量が向上を目指す。</p> <p>・校内組織の活性化、効率化を目指す、主幹教諭や各主任等のミドルリーダーの指導力を有効活用するため、主幹・学年主任会等でより良い学校運営に向け検討を続ける。</p>	<p>校内授業研修を行い、特に5年次以下教員の授業力アップに努めた。若手教員の育成の場として、管理職や主幹教諭を助言者としたサロン山村(研修会)を行い、個々の自己分析や課題の共有を行うことができた。若手のみならず教職員の資質の向上につながった。主幹・学年主任会の開催によりスムーズな学校運営につながった。</p>	A
ブロック内相互評価後の気付き	<p>年間2回実施しているブロック授業研では、通常の教科の研究討議の他、教科以外の分科会に分かれて行うことにより、より一層の小中学校の実情について共有することができた。これにより、道徳・特別活動・児童生徒指導・特別支援教育などにおいても、ブロック内の小中学校で確認ができた。小学校6年生を対象とした部活動体験では南中学校の1つの柱でもある部活動について、小学生にも楽しく、興味関心を持ちながら説明・体験をすることができた。9年間で育てる子ども像を共有し、それぞれの学校での取組に生かした。今後は各学校のスタンダードなどについての課題もある。</p>		
学校関係者評価	<p>・地域連携については着実に取組が行われており、評価Aは地域としても嬉しく思う。</p> <p>・評価Aの項目については「これで十分であり、これ以上はない」ということではなく、新たな取組目標を設定してさらなる高みを目指して欲しい。</p> <p>・教職員の負担軽減についても目標をもって取り組んで欲しい。</p>		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>新たな学校経営中期目標を掲げ、7つの重点取組分野の目標の実現に向けて、全職員で第一歩を踏み出した。さらに来年度は目標の実現に向け校内組織が大幅に変更され円滑な組織運営が行われる予定である。「アクティブ・ラーニング」の積極的な導入により、各教科での生徒の主体的活動する機会が増えたことが学校アンケートにも現れた。今後もさらなる研修を深めていきたい。新たに立ち上げた主幹・学年主任会を来年度に向けてH29は学校組織、H30は行事について充実したものにしていきたいと考える。</p>		